

子安地藏尊大法会

7月24日(日) 午前8時半より



写真 北森久雄様

令和4年6月12日 高野山「青葉まつり」波切不動明王

轉法輪

もし一法に住すれば
即ち法縛を被って
生死を免れず

弘法大師

令和四年七月一日発行
発行所 犬飼山轉法輪寺
〒六三七〇〇七二
奈良県五條市犬飼町一二四
電話〇七四七二二一四四〇三
FAX〇七四七一五二四七一七
編集発行人 桑山聖淳
印刷所 森本印刷工業所
和・伊都郡かつらぎ町妙寺

地藏尊法要

日を追うごとに夏らしくなるこの頃、皆さまいかがお過ごしでしょうか。境内に伸びる雑草と格闘しながらも、その力強さに元気をもらっている気がします。さて、今夏も七月二十四日はお地藏さまの大祭を催します。みなさまどうぞご参拝くださいませ。

午前八時半より 地藏堂にて

水児永代供養会

午前十時より 大教室にて

子安地藏尊大法会

水児幼没霊供養

先祖諸霊供養

安産子授け・無事成長祈願

【地藏尊祈願札・御守り授与】

午前中に終了します

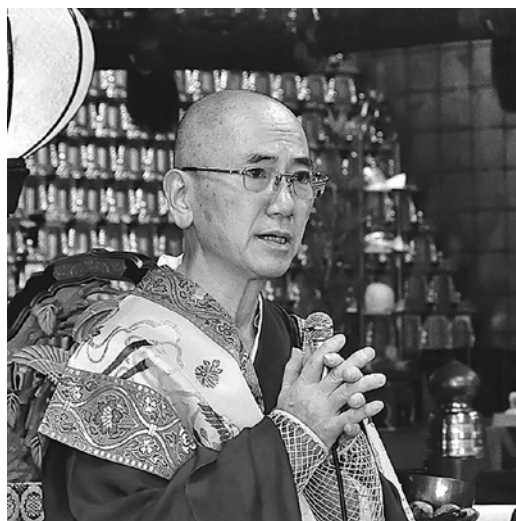
先祖・水児霊のお供養、安産子授け、お子様の無事成長祈願を受け付けています。同封の申込用紙にて、寺務所までご返送ください。

犬飼山轉法輪寺

お大師さま
のお言葉

一つの考え方に固執していると、結果自身を縛りつけ滅ぼしてしまう。多くの意見を取り入れてこそ、道が開ける。

轉法輪寺住職 桑山慈紹



春先から、夕方本堂の縁側で施餓鬼供養をしていると、小鳥たちが寄つてきて何やらおしゃべりをしてくれるようになりました。そして供養がすんだ後の仏飯をまくと、パアツと寄つてきて皆でつつき、また寝ぐらに帰つていきます。暗い二ユースが多い昨今、小

私は学生時代、高野山の真別処しんべつしよえんつう円通律寺りつじという道場で、大学に通いながら修行僧として生活していました。同輩にも恵まれ、厳しくも充実した日々が今もありありと思い出されます。

あるとき道場の台所にぎぶりが出たことがありました。学生たちで「あっちへ行つた」「そこにいるぞ」と、叩くためにてんやわんやしていたところに先輩がやつてきました。岸本さんというその先輩は、私達を見るなり「何をやってゐるんですか！」と大声をあげました。私たちは何を怒られてゐるのか分からず、きよんとしてゐると、続けて「ぎぶりがかわいそうでしょう！」

岸本さんは蚊でもハエでも、文字通り虫も殺さない方でした。不殺生戒という戒律がありますが、それを真つ当に実践しておられたのです。怒られてはじめてお坊さんの心構えが先輩ほど

しかしながら、我々は生きてゐる以上、他の命を頂いているのが現実です。知ると知らざると多くの犠牲の上に立つており、その犠牲から目をそらさず感謝と供養を申し上げる。それが施餓鬼供養というものです。

施餓鬼の祈願文は「願此食所生
功德普將廻施一切餓鬼法界有情
共生淨土疾得成仏」と唱えます。
「この供物がなす功德は、餓鬼道に落
ちたものをはじめ、生きとし生けるも
のにまで行きわたり、共に浄土へ生ま
れて成仏することを願う」と願いを込
めます。

この願文からは、人間だから偉い、虫だから軽んじていいなどという差別は感じられません。

仏の子としてこの世に等しく生を受けたもの、互いに支えあうものとして、
 拜んでいくことが施餓鬼供養の精神で
 しょう。

合掌

合掌

毎月21日は月並御影供(9時半～)・28日は不動尊護摩供(9時～)です。
どなたでもお気軽にご参拝くださいませ。入退出自由、昼食お接待です。

佛心

副住職 桑山 聖淳

佛心というは大慈悲これなり

無縁の慈をもって

もろもろの衆生を摂す

『観無量寿經』

五月二十一日、名譽住職一周忌。

たくさんの花で荘厳された堂内に、故人が遺した一幅の掛け軸がかけられた。題字は「佛心——大慈悲是也」。八十年代前半に書いたと思われるそれを見て、私は子どもの頃を思い出し出した。

弟子たちは口をそろえて「名譽住職は厳しかった、怖かった」と言う。もちろん私にもそのように感じられた（皆は孫のあなたにだけは優しいね、と言っていたが）。食事の席でも、鋭い視線に心の中を見通されるようで、出来るだけやましいことを考えないよ

うにしていたほどだ。

高校受験を控え、遅くまで勉強をしていたある夜、寺の電話が鳴った。出ると「今すぐ祈祷をしてほしい」という。起きているのは私ひとり。さあ、どうする。

住職も名譽住職も一日中祈願や相談を受けて、疲れて眠っている。かといって私は子どもだし、他に頼れる人もいない。それに数時間後には朝勤行だ。すこし待ってもらうか、いや……？

運よく目を覚ましていてくれないか、と願いながら名譽住職の寢室を覗くが、静かに眠る姿。真夜中に起こされて気分が良い人はいないが、仕方なく恐る恐る声をかけ要件を伝える。すると「ん、よしわかった」と驚くほどの寢覚めの良さで布団から出て衣に着替え、本堂に向かって行った。

お堂の中で普段どういうことをしているのかは知らなかったが、その時の姿は名譽住職を象徴していたと今も強く記憶に残っている。一期一会の縁も

多い。電話で祈願を申し込んでそれつきりという人もいる。たとえそうだとしてもその瞬間は、本心から救いを求めているのだから応える。それが名譽住職にとって、冒頭にある「無縁の大慈悲（自分との関係性に関わらず、全てを慈しむ心）」だったのだろう。

慈悲は慈愛とも言い換えられる。エーリッヒ・フロムが著した『愛すること』には、愛には「責任」が必要と説かれる。

原文は「responsibility」であり、「要求に応じられること、また応じるだけの力や準備が調っていること」だ。それに倣うなら、慈悲心とはただ想うだけで務まるものではない。要求に応じ、こたえる。また求められない時でも心身を整えておく必要がある。

僧侶であった名譽住職は「拝む」とに全てを置き、それを惜しむことはなかった。高齢になってからも「拝めんなったら死んだのと同じ」と言い、無理をして私達家族を心配させた。自

分が出来ることであれば、また自分に求められたものであれば、いつでもどのようなことでも引き受け、惜しみなく与える姿勢があつた。

「慈悲」や「愛」。言葉にするのは簡単だが、実行はし難い。何に應えるのかも人それぞれだろう。故人の冥福を祈る法事は、私にとつての慈悲を改めて考えなおす機会でもあつた。



第六回 「会釈」

「この前ね、スーパーでどこかで会ったな〜って人がいたのよ。会釈だけしといたけど、誰やったんやろ〜」
みなさん経験ありますよね、名前

も覚えてないしどうしよう、こんな時はやり過ぎが吉、軽い挨拶でかわそう！なんて場面。実はこれ、全く反対の意味の仏教語から出来たものなんです。

元々は「和会通釈」となり、別々の仏典に見つかる矛盾を照らし合わせて、お釈迦さまが本当に言いたかったことを明らかにしようする行いでした。お釈迦さまは「待機説法」といって、相手に一番適切な言葉を時々で選んでいました。だから後世にはちぐはぐに感じられる部分が出てきてしまったのですね。

のちに人の関わりにも使われるようになりました。相手の心を推し量って配慮する、思いやる行いが「会釈」だったのですが、いまは儀礼的な形だけが残ってしまったようです。

でも、もしかすると顔しか覚えてないその人も、自分と同じこと思っていたりして？ そういう時は相手の気持ちを推し量って、「会釈」が最善手かもしれないね。

傾聴

寺族 桑山 愛

私の前職は看護師です。お寺に嫁ぐ前は、全く知らない世界で、何をしたらいいのか、右も左もわからない：そんな心境でした。日々、檀信徒の方と関わる中で、「寺院」と「病院」は似ている部分があるのではないかと思つた出来事がありました。

ある日、悩み相談を希望される方から電話の問い合わせがあり、ご両親が娘さんの精神状態を心配されていました。電話で簡単に相談内容を聞いた時に、私は心の中で「お寺で解決することなのだろうか」と思いつつ、予約日に来寺されることとなりました。

娘さんは、発作が起きて泣き叫んでいる状態で、娘さんを背負って本堂に入って行かれました。私はその時、このままの状態が続いていたら救急車を呼んだ方が良くかもしれない

いと緊張が走りました。しばらく叫び声が聞こえていましたが、「カーン」と本堂から鐘が鳴り終わった頃には、叫び声は聞こえなくなり、笑顔で本堂から歩いて出て行く姿が見えました。私はたった数十分で落ち着かれた姿に驚きました。その後、住職に尋ねると、「話を聴き、拝んだだけだよ」と返答があり、それ以上語ってはくれませんでした。後で振り返ると「傾聴」という言葉が浮かんできました。

傾聴とは、「耳」・「目」・「心」を傾けて真摯な姿勢で相手の話を聴くコミュニケーションの技法です。言葉の意味を理解できても、実際に日常的に技法を使うことは、とても難しいと思います。

看護においても傾聴という言葉をよく耳にしていました。ゆっくり話を聴いてあげたいけれど、時間がない、業務に追われる毎日…そのような中、上司に教わった事があります。「相手の方と話す時間は、他の事は

考えずに話し手に集中をして耳を傾けること」。

住職の話を聴く姿勢、日々拝まれている姿が、相談に来られた娘さんの心に伝わったのではないかと思う出来事でした。

病院は、病気を治療する場所ですが、寺院は心の病を癒す場所であることに気付きました。今は医療現場から離れています。「病」に共通する場所にいることには変わりはなく、何か力になることができたと思う日々です。

寄稿文

お接待

勤め人にとって「接待する」または「接待される」のは言わば特権です。客先との親交を深める、又は日頃のお礼、特別に遇する、遇される時間。いずれにせよ、帰りにはタクシーにてリッチな気分。現在のコロナ下においては、少々難しい時と思いま

すが。

母の依頼にて、轉法輪寺に父の病の治療についての「お伺い」と、病気の平癒の祈願に参拝した時のこと。早朝より出向いたにも関わらずお参りの方が多く、お伺いは昼休憩をまたぐ様子。私共夫婦と、その他二組程が昼からの受付です。

父の病は決して状況の良い物ではなく、緊張しての待ち時間、お腹もすいてきたが、五條周辺の地理にも無案内で食べ物屋など思いも付きません。それにしてもお腹すいたな。そんな時、待合室の障子がスツと開きました。

「お接待です。」と「きな粉餅」が振舞われました。見ず知らずとも言える一般の参拝者に「接待」との言葉で、食事を振舞うことに驚きました。

振舞われた「きな粉餅」に何とも言えぬ満足を感しました。今まであった、緊張・空腹感は無くなり、不思議と穏やかな気分になったと記憶しています。「お伺い」を終え、その後

の父の入院・施術後の看病を強い気持ちで支える事ができました。

当初は医師より半年、素人目にも半年なんてとんでもない、3カ月持てばとの減衰状態の父でしたが、奇跡的に回復。

その後、しばし入院治療は必要でしたが、轉法輪寺の皆様と、四国八十八か所の巡礼を無事に終え、六年後に永眠しました。 合掌

〈寺嫁日記〉

あした天気になあれ

その十二

小松 裕衣

♪カムカムエヴリバディ

ハウドゥユー

アン ハウアーユー♪

証城寺のためきばやしの軽快なり
ズムに、二歳の娘・実央も嬉しそうに

テレビの前に座ります。午前八時、中学生になった長男、小学生の次男・三男を送り出した私のお楽しみの時間、朝の連続テレビ小説のはじまりです。

この♪カムカム：は、きつと多くの方が心を寄せてご覧になっていたのではないでしょうか。岡山・大阪・京都を舞台として、ラジオ英語講座に影響を受けた安子・るい（娘）・ひなた（孫）が三世代に渡って紡いでいく、百年に渡る物語が描かれています。

特に、一九二五年（大正十四年）に岡山市の和菓子屋「たちばな」に生まれた安子の物語は、胸に迫るものがありました。何不自由ない幸せな幼少時代から一変し、安子は戦争で両親や結婚して間もない夫を失い、たった一人で幼い娘、るいと生きることになります。

つらく苦しい時代でしたが「おいしゅうなれ、おいしゅうなれ」とおまじないをかけながら作る「たちば

な」秘伝のあんこが、安子の人生の支えとなりました。食べる人の笑顔を思い浮かべて真心を込めて作る安子のおはぎは、画面越しにも美味しさが伝わってきました（テレビの影響で近所の和菓子屋に行列ができました）。

去る五月、嫁ぎ先の圓光寺で晋山式が行われ、夫・真典さんが三十一代目の住職となりました。私もいつの間にか嫁いで十四年になりました。

圓光寺の先住様たちから受け継いだ住職というバトンを、今度は私たちが次の世代につないでいかななくてはなりません。

まだまだ手探りの日々、寺族としては半人前の私ですが、真心込めて誠意を持って尽くせば、きつと道は拓けてくるはず。朝食の玉子のボウルをかかえて「おいしゅうなれ」とおまじないをかける娘を見ながら、朝ドラが残してくれた余韻に浸っているのです。

ご詠歌をお唱えしたい方を募集しています。犬飼詠歌講では少人数で気遣いなくご詠歌を覚えられます。各地の巡拝でもお唱えできます。

初めて寄席を見て

古佐田丘高校

邦楽部 高田彩愛

このような間近な所で寄席を見るのは初めてで、私にとつてとても貴重な体験となりました。

露の団つゆまるこ姫さんの落語は、ある日亡くなつてしまった村人が閻魔大王に裁かれるまでの世界を面白おかしく旅するお話でした。私が普段、生活する中で耳にするような人や物が登場し、とても笑わせていただきました。

また、豊来家大治朗さんの曲芸では、傘の上で鞠や金物をクルクルと回す技や、あごの上に棒や板、湯のみを積み重ねていく「立て物」を見させていただきました。

このような曲芸は映像などでしか見る機会がなかったので、実際に自分目で見ることができて良かったです。特に印象に残ったのは、日本で

豊来家さんただ一人しかできない「剣の輪くぐり」です。間近で伝統芸能の面白さや素晴らしさを感じることによって、自分達の住む国の文化の良い所を再確認できるのだと思いました。

寄席の後半では、露の団姫さんが落語家や僧侶を志すきっかけなどを話してくださいました。団姫さんの人生の転機は、私のような年齢の時にあったそうです。団姫さんのお話を聞いていると、共感できる部分もあり、勇気づけられました。

私はお箏おんを演奏する部活動に所属しています。同じ日本の伝統芸能を楽しむ者として、もっとたくさんの人に伝統芸能を知ってもらえるように、より力を入れて部活動に取り組んでいこうと思いました。寄席を観て得られた気づきを、これからの生活に生かしていきたいと思います。



子安地藏尊のお願い

水尻供養を希望される方は、同封した供養申込書にてお申込み下さい。当日でも受付ます。

(供養料…一霊五百円です。)

へご奉仕のお願い

暑い時ですが、世話人様はじめ信者の皆様のご協力をお願いします。

① 七月二十三日(土)、掃除、のぼり立て、ちょうちんつり、飾りつけなどの諸準備。

② 当日七月二十四日(日)早朝より。

そでなし白衣・うで念珠、または、ゆかたでお手伝い下さい。

③ 七月二十五日(月)、あとかた付け。

④ 七月三十日(土)

高野山よだれかけ付け参り



毎月一回、お寺で＜ものづくり教室＞を開催中。消しゴムハンコと陶芸教室、どちらもお子様・初心者の方も大歓迎です。

三年ぶりの内吉野結集総出仕を
もって執行できました。



揃いの衣装のご詠歌衆先導の
入堂です。



寄席、露の団姫さんの落語で
大盛況！



消しゴムはんこの絵はがきに
込められた「同行二人」の思い。



弘法大師 正御影供盛大

去る四月十七日

この度は正御影供法要に際し、物心両面にわたり
ご支援ご協力をいただき、本当にありがとうございます。
今年は落語家で僧侶でもある露の団姫さんをお招
きし、お話を聞きました。
堂内の隅々にまで届く、すばらしい声での二時間
の講演は圧巻でした。